



長岡シティホール（案）

長岡造形大学 藤澤研究室 藤澤 忠盛
FUJISAWA Tadamori

メンバー

齋川 洋介 小俣 拓也
木村真衣子 清島 元基
瀬高 裕志 田中 沙織
山根晋之介 山口 佳祐
石塚元工房職員
新海研究室 新海 俊一
一級建築士事務所 伊藤建築設計

長岡シティホール

長岡市の新時代は「市民と行政のコラボレーション」によって創り出される。長岡シティホールは、このコラボレーションを実現するために欠かせない両者の信頼関係、街の安全性、市政の透明性を体現するとともに、そこで展開される賑わいを可視化して街の活性化の象徴となるであろう。

課題1 複合の利点、施設間の連携・一体化のあり方

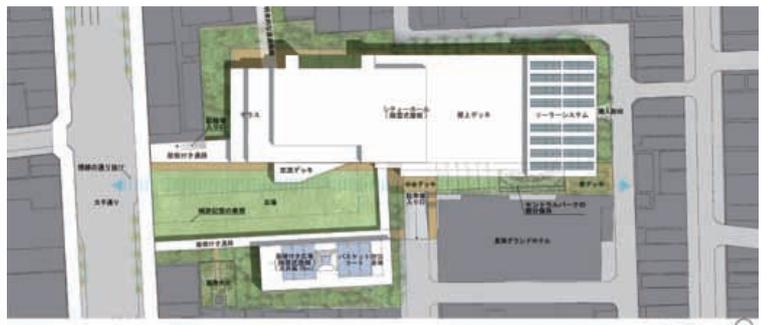
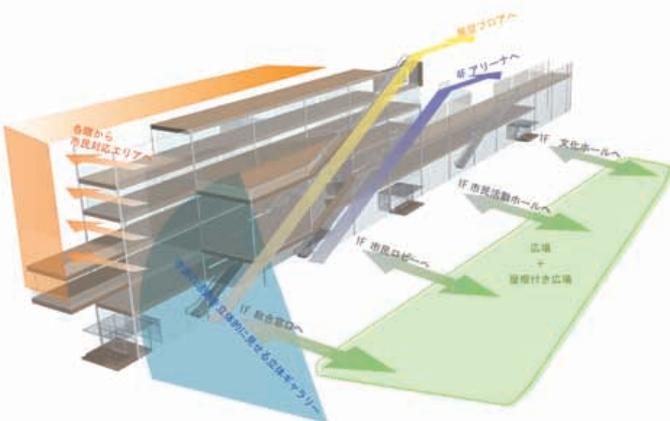
- ・＜象徴＞長岡というまちを象徴するシティホールとなること。
- ・＜協同＞市民、行政の協調によるまちづくりの場となること。
- ・＜透明＞市民から見た市政の透明性を表出するデザインであること。
- ・＜明快＞土日、祝日の利用に対応するゾーニング、サーキュレーションが考慮されていること。

課題2 屋根付き広場の快適性・利便性

- ・＜耐候＞雨天、降雪季にもバザールやイベントに利用可能な半屋外の空間であること。
- ・＜災対＞災害時の一時避難、支給品配布の場（防災倉庫）として活用可能な開放性を備え、多数の市民が円滑に離合集散できる場所であること。
- ・＜汎用＞シティホール本体と連携しての利用、単独での利用双方に対応出来る広場であること。

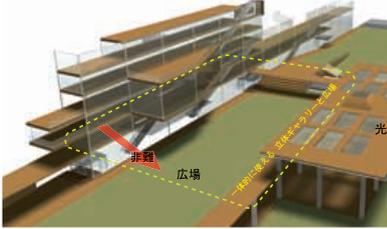
課題3 周辺との相互関係・波及性を意識した賑わいづくり

- ・＜安心＞シティホール本体の建築面積を抑制して固有の形状を持つ敷地の隅々までの見通しをはかる配置計画により安全・安心感を確保できること。
- ・＜象徴＞中心市街地のコミュニティコアとなる象徴的なデザインであること。
- ・＜活気＞垂直動線を広場に面して誘導し、人の動きや活動を視覚化することにより、にぎわい感を出させること。



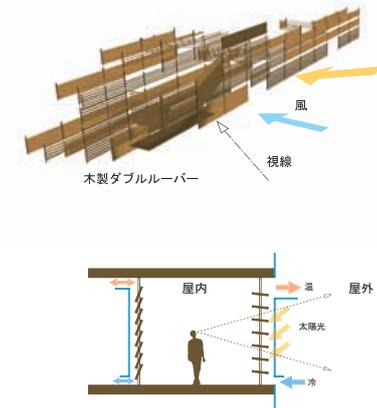
■広場を囲うシティホールと屋根付き広場

シティホール、広場、屋根付き広場は相互に連携し、単独での利用にとどまらず、屋内外を横断する活動をも誘発する。また、オールシーズン対応の公共・防災空間を提供する。



■木製ダブルルーバーによる環境調整

二重の木製ルーバーの設置により、光・風・熱・視線の4要素の環境調整を可能としている。

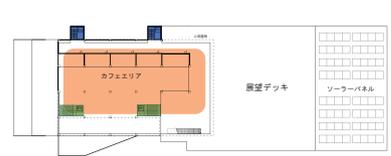


■立体ギャラリー+交流デッキ+アトリウム

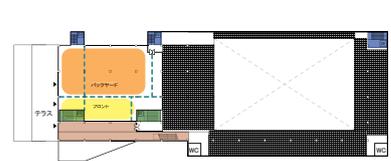
西側の広場に面する通路部分（立体ギャラリー）と、これに接して各階に設けられた交流デッキ、4層吹き抜けのアトリウムは、来庁者の賑わいを視覚化し、市議会や屋内外のイベントをクリアに見渡す多様な視点場を提供する。



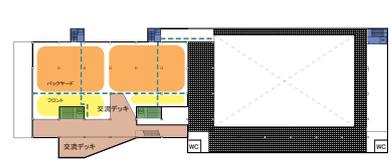
RF



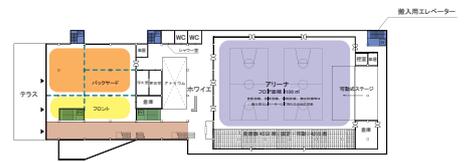
6F



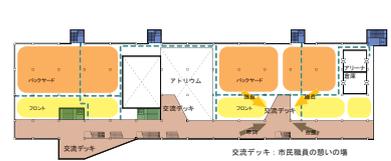
5F



4F



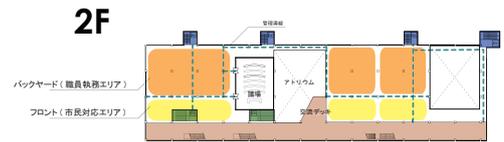
3F



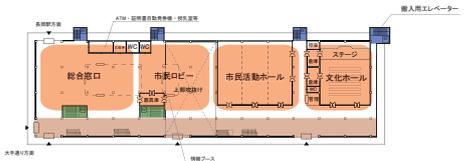
■フロント+バックヤード

市役所本庁舎は西側の市民対応エリア（フロント）と東側の職員執務エリア（バックヤード）とに分けられ、複合型施設でありながらも市民・職員の動線や管理区分を明確化する。

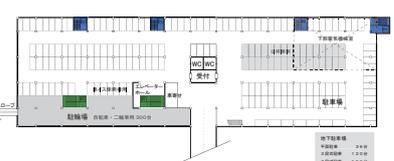
2F



1F



BF



左上：屋根付き広場よりシティホールを望む
 左下：広場よりシティホール（ガロウイング）を望む
 右上：イベントで賑わう広場の様子
 右下：3on3コート、防災倉庫を内包した屋根付き広場全景

課題4 インニシャルコスト・ランニングコストの軽減策

- ・＜躯体＞単純な構造物を採用し、建設費を軽減すること。
- ・＜空調＞広場、屋根付き広場に面する立面は利用者の活動のはらみ出しを意図してガラスを用いた透明化を図る一方、長岡駅に面する東側や隣接建物に近接する南北面は所用採光量を確保できる開口部を限定的に設けるにとどめ、熱貫流量を抑制して空調負荷を軽減すること。
- ・＜換気＞市民ロビーを含む吹き抜け部分や多人数で利用するアリーナでは機械換気と自然換気を併用し、空調負荷軽減をはかすること。
- ・＜緑化＞シティホール本体と市民プラザに挟まれた芝生広場や空中庭園の計画により、利用者が施設内外で緑と接することができる多様な場所を提供するとともに、屋上緑化でスラブ温度の抑制をはかり、行政が率先して省エネルギーを推進すること。

課題5 雪国であることに対する対応策

- ・＜歩行＞大手通アーケードとシティホール、広場を連結する軒を設け、四季を通じて歩行者の利便性を高めること。
- ・＜駐車＞シティホール地下駐車場、大手通地下駐車場、シティホール、広場、アーケードの接続をはかり、四季を通じて自動車利用者のスムーズなアクセス動線を確保すること。

